

史跡上田城跡保存活用計画 概要版

策定の沿革・目的

上田城は戦国時代から現在に至るまで破城や解体など多くの契機を経て守り伝えられ、現在は史跡上田城跡として保存・活用が進められている。最近では平成23年度に「保存管理計画」の策定、「整備基本計画」の改訂を行い、それを基にした整備等が進められてきた。そこから10年あまりが経過し、今後の保存・活用について見直しが必要となり、平成30年の文化財保護法改正によって「文化財保存活用計画」が制度化されたことを受け、当計画を策定し史跡上田城跡の本質的価値を明確にし、次世代に継承するための適切な保存・整備・活用・実施体制の方向性や方法を示すこととした。

本質的価値及び近代以降に形成・付加された価値（概略）

(1) 上田城の本質的価値

(守るべき価値)

●上田城跡の歴史的な価値

- ◆^{あまがふち}尼ヶ淵に面する段丘上に築かれ、二度にわたり徳川軍によって攻められるも落城しなかった堅城。
- ◆戦国期や第二次上田合戦などで大きな役割を果たし、歴史の転換点に名を残した。
- ◆数々の変遷を遂げながらも真田領や上田藩の拠点として、中世から近世の城郭の変換期をまたいで使用された城。

●仙石氏復興開始後の縄張りとしての価値

- ◆自然地形を巧みに利用した城。
- ◆^{すみおとし}隅欠を設け、本丸北東隅に2つの櫓を配置した^{きもんよけ}鬼門除けを強く意識した城。
- ◆本丸には七つ櫓や櫓門、高土塁等が配置された堅固な構えを持つ城。
- ◆二の丸には石垣等により^{よこや}横矢をかける構造にするなど技巧的な構造を持った城。
- ◆二の丸が復興途中で中断され、幕末まで三の丸で藩政が行われていた城。

●遺構としての価値

- ◆堀や土塁等が近世の絵図どおりに多く残り、城郭としての姿をよく残している。
- ◆今後の調査により真田期の要害上田城の構造と仙石期の改築の具体像を明らかにすることができる。
- ◆尼ヶ淵に石垣が良好に残り、千曲川による崖面の水害対策をうかがうことができる。

(2) 近代以降に形成・付加された価値

- ◆廃城後、本丸は神社用地、二の丸は伝染病院や桑畑として利用されたことにより、市街地化に伴う遺構の破壊を免れ、市民にとって必要な場所としての役割を果たすこととなった。
- ◆二の丸の公園化やスポーツ施設設置、鉄道の敷設により公園利用や運動、人や物資の輸送路など様々なニーズを満たす場となった。
- ◆昭和初期から上田城跡が「城跡」として市民のシンボルとして親しまれるようになる。
- ◆市民のシンボルであると同時に観光名所としてまちづくりの拠点としての役割を担う史跡。



しょうほう 正保4年(1647) 信州上田城絵図(国立公文書館蔵)(一部)

課 題

(1) 保存の課題

- (史跡内) ◆無耕作地等の私有地公有化 ◆植生管理 ◆真田期の遺構等確認
◆遺構未確認部分の発掘調査 ◆石垣、土塁、櫓等の崩落防止、耐震化
- (史跡外) ◆追加指定の検討 ◆発掘調査による遺構確認

(2) 活用の現状と課題

- (史跡内) ◆城郭遺構の情報発信 ◆ライトアップ計画の検討
◆来訪者への理解促進 ◆市民団体等のイベントが少ない
◆近世期の様子を体感するコンテンツ整備
- (史跡外) ◆かつての城内であることの情報発信 ◆まちなみの歴史的経過の発信

(3) 整備の現状と課題

- (史跡内) ◆整備に必要な発掘調査、資料調査の継続 ◆整備基本計画の改訂
◆(仮称) 博物館整備基本計画の策定
- (史跡外) ◆整備方針の設定、計画的な運用 ◆遺構に配慮した運動施設の維持

(4) 運営・体制の整備の現状と課題

- ◆庁内連携強化 ◆住民自治組織、市民団体、市民との連携強化
◆専門知識を有する職員の確保



各部の名称

大 綱

伝えよう未来に、尼ヶ淵の堅固な要害を

1. 継続した調査研究により、破却された真田氏の城を仙石氏・松平氏がどのように改変したのかを明らかにし、その調査成果をもとに保存・活用に取り組むことで、関ヶ原後の破城、武家諸法度の下での復興、そして明治維新による廃城といった様々な契機を経て今に遺された史跡上田城跡の価値を市民が理解し、これを地域の宝として未来に継承しようとする機運の醸成に努める。
2. 現存する石垣や土塁、堀等に加え、櫓や櫓門、二の丸東虎口の堅牢な石垣の配置、尼ヶ淵の要害等を再現することにより、史跡上田城跡の価値を顕在化し、来訪者の特徴や歴史を体感できるような整備・活用を推進する。
3. 市民や関係団体などと、堅固な尼ヶ淵の要害や本丸七つ櫓、各所に配置された鬼門除けの仕組みなど、史跡上田城跡の魅力のひとつである築城時から累積された本質的価値を共有し、上田市全体で保存・活用を推進する。



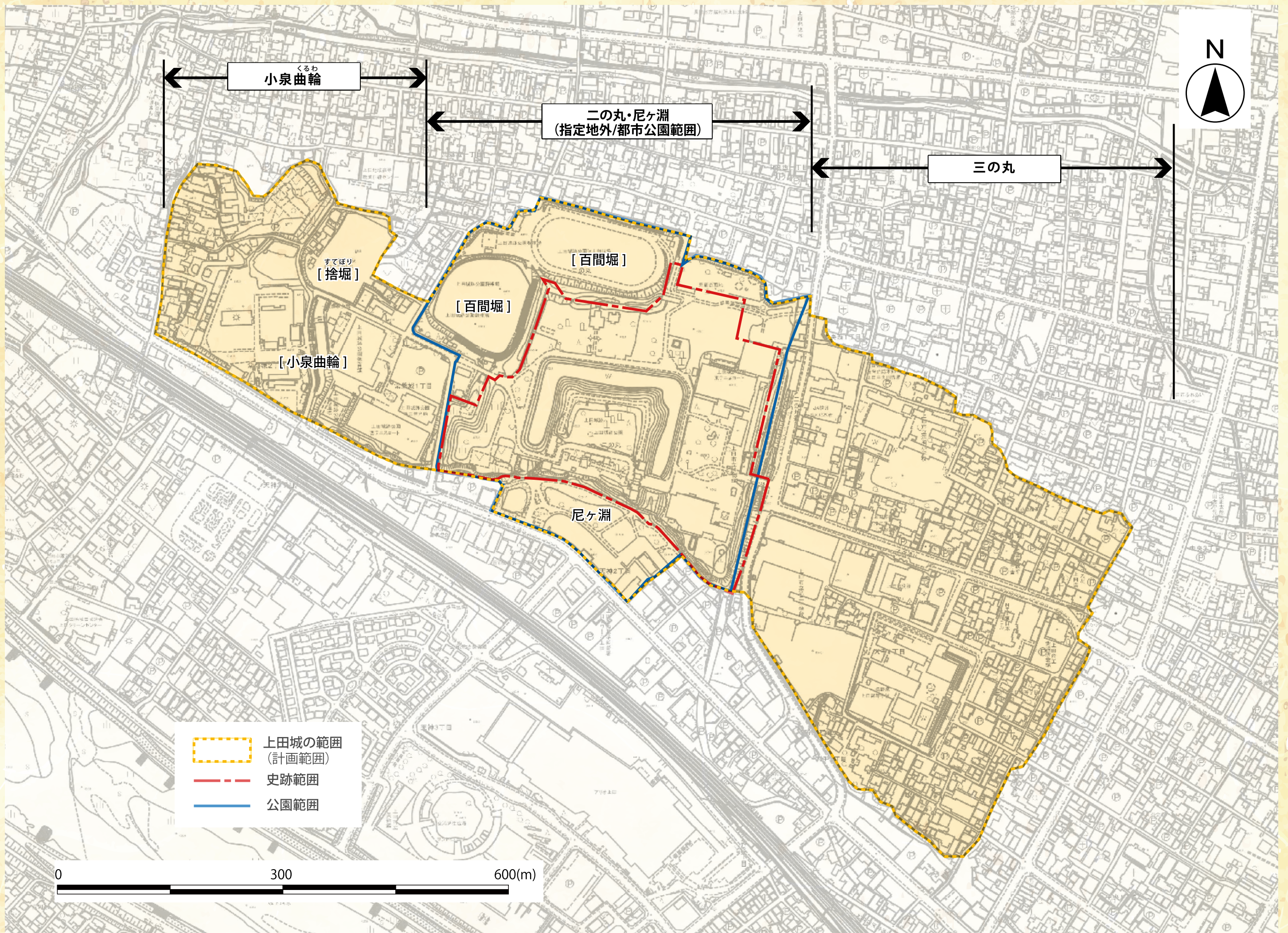
尼ヶ淵



令和5年度 発掘調査



上田藩主居館表門（現上田高等学校）



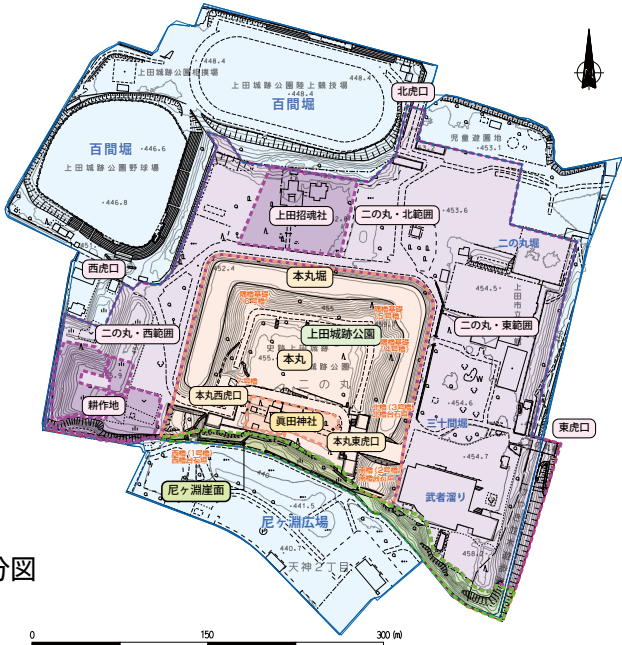
保存管理

①基本方針

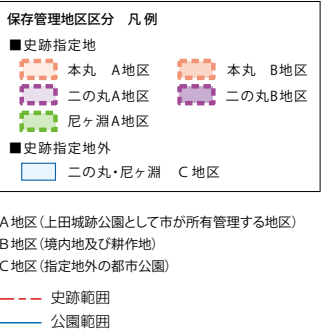
本質的価値を踏まえた適切な保存管理。前提となる調査の推進。土地公有化や追加指定の検討。

②方向性

指定地内／外	地区名	基本方針
史跡指定地	本丸地区 (A地区・B地区共通)	◆史跡上田城跡で最も本質的価値が顕在化している地区であり、隅櫓3棟、土塁、堀をはじめ、石垣や礎石など、城郭構造を体感できる ^{すうよう} 枢要な区域である。これらの建造物や遺構について、現状を適切に保存し、必要な修理を行う。 ◆現在失われている遺構や建造物について、調査研究の結果、十分な資料が得られた場合において、保存・活用に有益である場合、本質的価値である要素を保護したうえで復元を検討する。
	二の丸地区 (A地区・B地区共通)	◆現存する遺構は現状を適切に保存し、必要な修理を行う。 ◆近代・現代の施設については、維持や移設、撤去等の方針を個別に検討する。 ◆便益施設や植生について史跡公園・都市公園としての環境を維持する。
	尼ヶ淵地区	◆良好な状態を維持している石垣は、現状を適切に保存する。石垣および景観の保護のため、樹木や草木を適切に管理する。 ◆き損した石垣は、調査成果等を反映させて修復等の措置を講じる。 ◆崖面の保存を行う際は、上田泥流層の風合いを維持する措置を検討し、対策を講じる。 ◆災害発生時の緊急体制（市組織及び関連機関）を構築する。
指定地外（埋蔵文化財包蔵地）	二の丸・尼ヶ淵 C地区 (都市公園範囲)	◆百間堀は、城が営まれていた当時の堀が良好に保存されている箇所はないが、良好な状態を維持している土塁は、現状を適切に保存する。 ◆き損した土塁は修復を行い、発掘調査等の成果を反映させて修復等の措置を講じる。 ◆二の丸堀の地下遺構については、適切に保存を行う。 ◆尼ヶ淵は、樹木等の適切な管理を行い、景観維持に努める。
	三の丸	◆藩主居館や作事場、大手門、三の丸堀といった地下遺構が点在し、武家屋敷の面影を保存する建造物もわずかに見られる。所有者や管理者の協力を得ながら、遺構の保存を図る。
	小泉曲輪	◆体育館などの体育施設等が所在しているが、当面の間はこれを適切に管理し、必要な修理等を行い維持する。施設の更新については、総合的な計画や防災の視点も含め、場所の検討を行う。 ◆今後、発掘調査が行われていない区域については、機を捉えて発掘調査を実施し、重要な遺構等が確認された場合は保護措置を講じる。



地区区分図



③調査・研究

本質的価値を明らかにし、保護・向上させるため、発掘調査、石垣基礎調査、変状調査、資料調査等を継続して実施。

④現状変更の取り扱い(抜粋)

- ◆本質的価値、それを構成する諸要素、景観に悪影響を及ぼす行為は、原則として認めない。
- ◆調査、整備等は本質的価値への影響が最小限であることを条件とする。

⑤植生管理方針

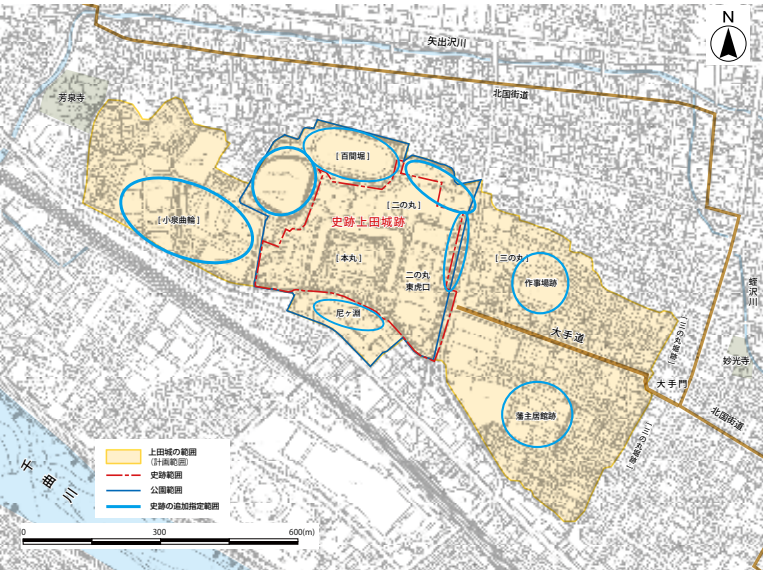
- ◆景観の阻害、遺構への悪影響が認められる樹木は剪定、伐採を進める。
- ◆近世当時の樹木に関する調査、研究を進め、その成果を含めて植生管理の方向性を今後改訂する整備基本計画に反映させていく。

⑥史跡の追加指定

右図で示す範囲について、将来的に追加指定を目指す。

⑦指定地公有化の考え方

地権者の意向を尊重しつつ条件整備、協議を進める。



活用

①基本方針・方向性

本質的価値や近代以降の価値について様々な媒体により発信する。また、史跡内外の遺構へ来訪者が訪れることができるよう動線の検討を進める。

②方法

- ◆全体的な城郭遺構の情報発信
来訪者の少ない場所も含めた遺構の情報発信
- ◆歴史的経緯の情報発信
仙石氏による復興以降の情報提供の推進
- ◆AR、VRを活用した上田城の全体像の発信
VR 上田城の再検証、再公開を検討
- ◆イベント等における活用
史跡内のイベント等での城郭の魅力発信 中、小規模イベントの推進
- ◆都市公園としての活用
様々な来訪者への本質的価値等の周知
- ◆城下町と一体とした活用
史跡外、城下町も含めた活用の推進
- ◆学校教育や生涯学習における活用
学校との連携や出前講座等の推進

整備

①基本方針・方向性

調査を進め、その成果を基に本質的価値を保存するとともに、史実に忠実な復元整備を進め、学びの場、憩いの場などの様々な公開活用の取組が適切に図られるよう、史跡上田城跡整備基本計画を改訂し、整備を進める。

②方法

◆二の丸東虎口

市民会館の解体を進め、跡地には武者溜り、三十間堀の整備工事を進める。

◆二の丸東虎口北側一帯

テニスコート移転後の整備については、有識者の意見を踏まえ検討を進める。

◆本丸内の4櫓及び櫓門の再現

懸賞金制度等により資料収集に努めるとともに、西櫓を基にした櫓の再現等についても調査研究を進めていく。

◆上田市立博物館移転後のガイダンス施設

(仮称)博物館整備基本計画策定を進め、移転後のガイダンス機能を持つ施設設置を検討していく。

運営・体制の整備

①基本方針・方向性

史跡の適切な保存・活用を図るため上級官庁や専門家の助言、指導を受けるとともに庁内体制及び連携の強化を図る。また、史跡内の地権者や市民団体、民間組織等と連携、協働を進めながら取組を推進する。

②方法

◆上田市における体制の確立

◆専門家会議等からの

指導・助言体制の維持

◆関係機関との連携

◆市民協働の推進

